

1 水産総合研究所の沿革と組織

(1) 位 置

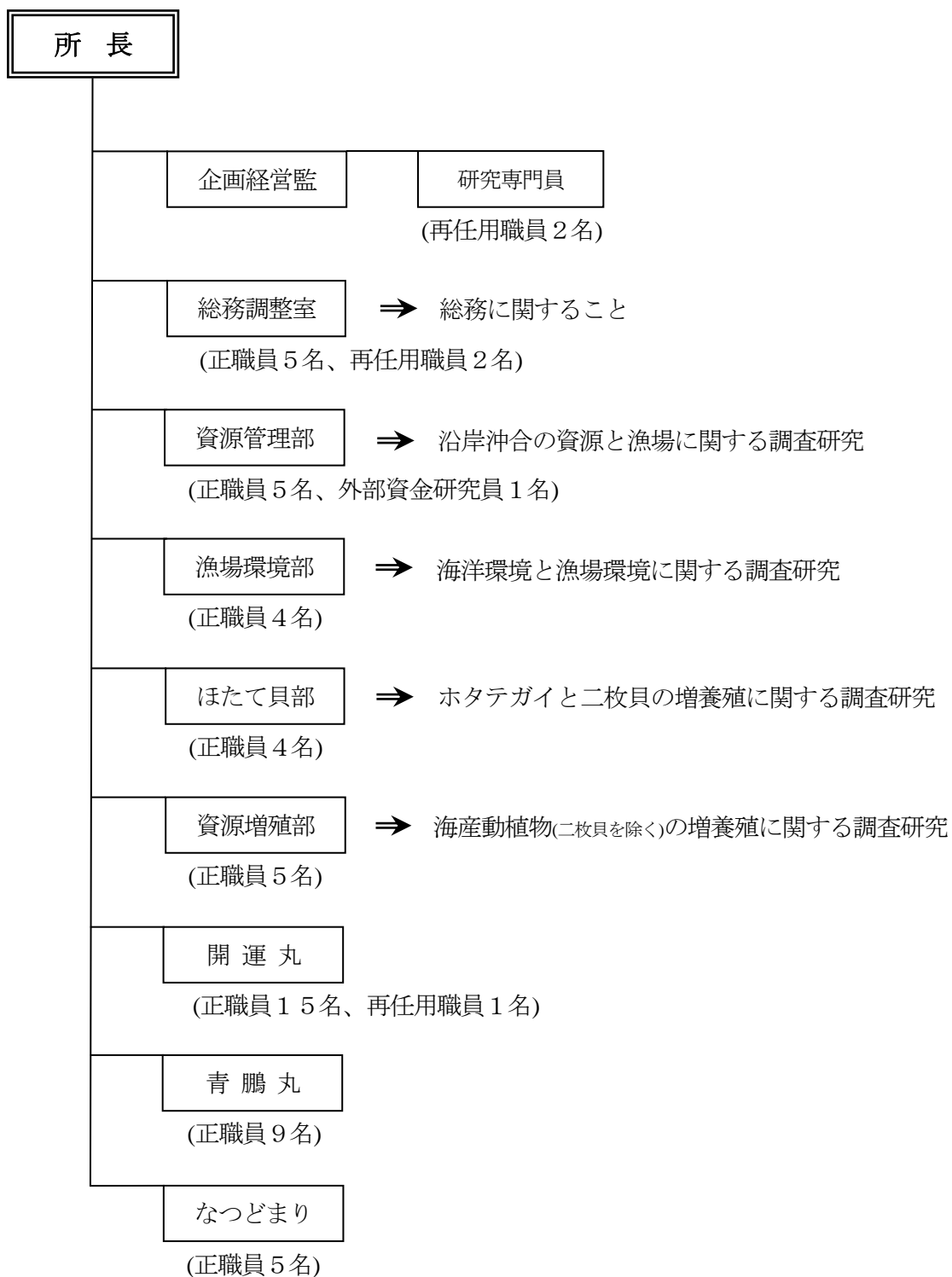
東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

(〒039-3381 TEL 017-755-2155 FAX 017-755-2156)

(2) 沿 革

明治33年2月	青森県水産試験場設置認可（農商務大臣）
明治33年4月	青森市大字大野字長島青森県庁構内に設置し事務開始
明治34年	相坂鮭鱒人工ふ化場を上北郡藤坂村に設置
大正13年	本場を八戸市湊町に移転
昭和23年	黒石養魚場を南津軽郡中郷村に設置
昭和23年	本場を西津軽郡鱒ヶ沢町に移転、庁舎新築
昭和24年	陸奥湾分場をむつ市に設置
昭和25年	黒石養魚場を黒石市大字石名坂に移転
昭和27年	陸奥湾分場が陸奥湾水産増殖研究所と改称され独立機関となる
昭和43年	水産増殖研究所を平内町茂浦に移転し、水産増殖センターと改称する
昭和51年3月	鱒ヶ沢町大和田に水産試験場新庁舎を竣工
昭和56年4月	十和田市に青森県内水面水産試験場を設置する（相坂、黒石両養魚場及び内水面関係業務を移管）
昭和58年2月	青森県水産試験場漁業研修センター竣工
平成5年	水産増殖センター新庁舎竣工
平成12年4月	水産試験場創立100年
平成13年3月	八戸市ポートアイランドに漁具倉庫新築
平成15年4月	試験研究機関の統合により青森県水産総合研究センターと改称され、下部機関として増養殖研究所、内水面研究所が配置となる
平成18年4月	水産総合研究センター庁舎を鱒ヶ沢町舞戸町に移転
平成21年4月	青森県水産総合研究センターと増養殖研究所を統合し、地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所となり、庁舎を平内町へ移転

(3) 機 構 (2021 年度)



事務所：30名 (うち、外部資金研究員 1 名)
 試験船：30名
 計：60名

(4) 施 設

① 土 地	20,971.30m ²		
② 建 物	5,461.74m ²		
・管理研究棟	鉄筋コンクリート造	1部2階建	1,735m ²
・実験機械棟	鉄骨造	平屋建	1,122m ²
・飼育実験棟	〃	〃	1,563m ²
・研修宿泊棟	木造	2階建	271m ²
・作業棟	〃	平屋建	324m ²
・取水ろ過棟	鉄筋コンクリート造		103m ²
・倉庫棟	木造	平屋建	108m ²
・発電機棟	鉄筋コンクリート造	〃	59m ²
・車庫棟	鉄骨造	〃	74m ²
・油庫棟	〃	〃	8m ²
・その他			95m ²
③ 主な施設			
・海水取水ポンプ	7.5KW	3台	
・逆洗ポンプ	18.5KW	1台	
・ろ過槽(重力式)	80トン/時	3基	
・ろ過水貯水槽	120トン	1基	
・ろ過貯水タンク	9トン	1基	
・屋外コンクリート水槽	12トン:6面、10トン:8面		
・親魚棟コンクリート水槽	30トン:1面、20トン:1面、10トン:4面		
・屋内FRP水槽	30トン:2面、10トン:2面、5トン:3面		
・ブローワー	3.7KW:2台、5.5KW:1台		
・発電機	500KVA	1台	
・海水温度制御装置(アクアトロン)	温海水 5系統 35トン/時 冷海水 4系統 6トン/時		
・海況自動観測装置(ブイロボット)	3基		
④ 試 験 船			
・開 運 丸	199トン	ディーゼル	1,600PS (鉄鋼船)
・青 鵬 丸	65トン	ディーゼル	1,000PS (鉄鋼船)
・なつどまり	24トン	ディーゼル	770PS (FRP船)
⑤ 実 習 船			
・みどり	4.2トン	ディーゼル	50PS (FRP船)
・二十一海洋	2.8トン	船外機(4サイクル)	110KW (FRP船)

2 職員名簿

部署	職名	氏名	部署	職名	氏名
	所長 企画経営監 総括主幹研究専門員 研究専門員	菊谷 尚久 吉田 達 野呂 恭成 金田一 拓志	開運丸	船長 機関長 通信長 一等航海士 一等機関士 二等航海士 二等航海士 二等機関士 二等機関士 甲板員 甲板員 甲板員 甲板員 機関員 司厨員 海事専門員	笹原 一雄 佐藤 正樹 金屋 富明 石井 達也 肴倉 厚雄 小平 泰史 今泉 健介 高屋敷 一成 榊 修悦 佐々木 惇大 川口 翔平 寺井 舜哉 大坂 拓巳 須藤 竜太 阪崎 勝 小清水 寛
総務調整室	室長 主事 主事 事務専門員 技能技師 技能技師 技能専門員	長谷川 清 上野 美紀江 新松 和季 山田 雅治 上村 健 三戸 俊和 尾鷲 政幸		船長 機関長 一等航海士 一等機関士 二等航海士 二等航海士 甲板員 甲板員 甲板員 甲板員 機関員 司厨員 海事専門員	若崎 忠彦 中村 義美 本堂 洋一 多田 繕伸 角田 達美 小又 総 稲葉 白虎 北嶋 雄大 加福 文二
資源管理部	総括研究管理員 (部長事務取扱) 研究管理員 主任研究員 研究員 研究員 外部資金研究員	伊藤 欣吾 和田 由香 田中 友樹 松谷 紀明 傳法 利行 佐藤 大介		船長 機関長 一等航海士 一等機関士 一等機関士 二等航海士 甲板員 甲板員 司厨員	八木橋 憲一 逢坂 健幸 小笠原 大郎 須藤 蓮登 長津 司
漁場環境部	部長 主任研究員 研究員 研究員	高坂 祐樹 三浦 太智 扇田 いずみ 長野 晃輔		船長 機関長 二等航海士 甲板員 甲板員 司厨員	
ほたて貝部	総括研究管理員 (部長事務取扱) 研究管理員 主任研究員 主任研究員	吉田 雅範 山内 弘子 小谷 健二 佐藤 慶之介		船長 機関長 二等航海士 甲板員 主任海事専門員	
資源増殖部	総括研究管理員 (部長事務取扱) 主任研究員 主任研究員 主任研究員 研究員	高橋 進吾 鈴木 亮 遊佐 貴志 村松 里美 杉浦 大介		事務所：30名 試験船：30名 計：60名	

3 歳出予算執行状況

単位：千円

事業種目	事業内容	決算額
法人管理運営費支出		10,039
管理運営費支出		10,039
法人調整費	法人全体の調整(各種委員会等)	436
施設整備費	研究機器・設備の整備等	9,603
水産総合研究費支出		552,728
管理費支出		149,618
一般管理費(自己収入)	研究所の管理運営費(自己収入分)	2,231
一般管理費(交付金)支出	研究所の管理運営費(交付金分)	29,359
試験船警備費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の巡回警備業務委託料	2,511
運行管理費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の運行管理費	27,564
上架修理費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の維持修繕費	35,250
船舶保険料支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」「なつどまり」及び実習船「みどり」の漁船保険料	4,851
なつどまり運行管理費支出	試験船「なつどまり」の運行管理費	10,610
アクアトロン施設運営費支出	アクアトロンの設備保守管理	18,793
実習船管理費支出	実習船「みどり」の運行管理費	694
陸奥湾海況自動観測システム管理費支出	陸奥湾海況自動観測システム運営費	10,575
非常勤職員等経費支出	非常勤労務員の賃金等	7,180

単位:千円

事業種目	事業内容	決算額
水総研業務費支出		10,424
資源管理研究費支出		1,594
重要魚類モニタリング調査事業費支出	底魚類の資源評価のための基本情報のモニタリング	631
マダいの資源管理手法と高鮮度処理技術の開発事業費支出	マダいの効率的な年齢構成を推定する技術の開発と鮮度処理の実態を解明	763
アニサキスを用いたサワラ来遊起源判別事業費	サワラの来遊起源を明らかにするため、寄生するアニサキスを用いた手法の開発	200
漁場環境研究費支出		913
イカ類漁海況情報収集・提供事業費支出	スルメイカの漁期前調査及び漁期中の回遊状況等の情報提供	288
陸奥湾海況情報提供事業費支出	海況情報データ提供及び情報交換	303
スルメイカの漁況予測に関する調査研究事業費支出	効率的なスルメイカ操業を行うために必要な漁況予測手法の開発	322
ほたて貝研究費支出		1,630
ホタテガイ増養殖安定化推進事業費支出	天然採苗予報調査、増養殖実態調査	1,050
ICTを利用したホタテガイ養殖作業の効率化技術の開発事業費支出	へい死軽減と成長促進が図れる養殖工程を判断できるアプリケーションを開発	381
タイムラプスカメラを用いたホタテガイ養殖籠内モニタリング事業費支出	タイムラプスカメラを用いたホタテガイ養殖籠内モニタリング	199
資源増殖研究費支出		1,938
マツカワの養殖種苗生産技術開発事業費支出	量産技術及び効率的な養殖技術を開発	408
日本海におけるサザエの身痩せの発生状況に関する研究費支出	日本海におけるサザエの身痩せの発生状況を調べる	200
着水型ドローンを用いた水産分野での応用研究事業費支出	着水型ドローンの水産分野での応用の可能性を探る	1,330
研究費交付金事業費支出		4,349
資源管理に必要な情報提供事業費支出	日本海、太平洋、津軽海峡の海況情報提供	675
小型いか釣り漁業の経営安定推進事業費支出	経営安定に向けたICTスルメイカ漁獲情報管理システムの実用性を向上	315
新たな栽培・養殖魚種の増養殖体制構築事業費支出	アイナメの成長などの生態調査	1,939
海面養殖業高度化事業費支出	ホタテガイのへい死原因解明	800
日本海で育む磯根資源利用促進事業費支出	ドローを使った海藻資源調査	53
放流効果調査事業費	栽培漁業推進のための放流技術開発試験	567

単位:千円

事業種目	事業内容	決算額
水総研受託研究費支出		79,383
水総研受託研究費支出		79,383
高層魚礁効果調査事業費支出	高層魚礁へのウスメバル蛸集状況調査	7,205
藻場造成効果調査委託事業費支出	水産基盤整備事業により整備した漁場の効果調査	9,930
資源評価調査委託事業費支出	本県周辺海域での利用可能な魚種の資源量を評価するための関係資料整備	30,318
資源管理基礎調査委託事業費支出	県資源管理指針等に基づき、適切な資源管理推進のための調査	7,076
国際漁業資源評価調査(まぐろ・さめ)委託事業費支出	国連海洋法条約に基づき、マグロ・サメ類の科学的データを完備するための調査	759
あかいか資源調査事業費支出	太平洋沖合のアカイカ資源の動向及び漁場形成要因解析のための調査	20,573
大型クラゲ出現調査及び情報提供委託事業費支出	大型クラゲ出現情報及び情報提供	1,175
車力マコガレイ種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのマコガレイ種苗生産試験	385
野辺地マコガレイ種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのマコガレイ種苗生産試験	385
小泊ウスメバル放流種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのウスメバル種苗生産試験	200
下前ウスメバル放流種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのウスメバル種苗生産試験	200
定置網クロマグロ漁獲コントロール技術開発事業費支出	定置網に入網したクロマグロを効率的にコントロールする技術開発	977
三厩ウスメバル放流種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのウスメバル種苗生産試験	200
水総研受託事業費支出		5,610
水総研受託事業費支出		5,610
新規漁業就業者対策事業費支出	漁業の基礎知識、技術を身につけるための賓陽塾の運営	1,174
漁業公害調査指導事業費支出	陸奥湾の漁場環境保全のための監視調査	354
温排水モニタリング調査事業費支出	東通原子力発電所の温排水による影響調査	764
EU向け輸出ほたて安全対策事業費支出	対EUホタテガイ生産海域における毒素産出性プランクトン調査	486
貝毒プランクトンモニタリング調査事業費支出	国内向け二枚貝の貝毒及び貝毒原因プランクトンのモニタリング	2,622
ICT利用によるホタテガイ養殖高度化事業費支出	ホタテガイ養殖施設の管理用ICTブイの開発	210

単位: 千円

事業種目	事業内容	決算額
水総研補助金支出		307,693
水総研補助金支出		307,693
試験船なつどまり代船建事業居支出	試験船なつどまり代船建造に係る概略設計及び基本設計に要する経費	307,693
合計		562,767

※職員人件費については産業技術センター本部予算で一括計上

※他の研究所から配分替えを受けて執行した事業費を含む

※配分替えにより他の研究所で執行した事業費を除く

4 調査、研究報告及び資料・情報等の発行

(1) 公刊した報告書等

報告書名	発行年月	備考
2020年度青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告	2022年3月	
2020年度青森県産業技術センター水産部門事業概要年報	2021年6月	

(2) 提供情報

情報名	期間及び回数
ウオダス漁海況速報 No. 2090～2125	2021年4月～2022年3月 (36回)
陸奥湾海況情報 No. 1336～1386	2021年4月～2022年3月 (52回)
ホタテガイ採苗速報 No. 717～734	2021年4月～2022年3月 (12回)
ホタテガイ養殖管理情報 No. 197～205	2021年4月～2022年3月 (9回)
付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ情報 No. 99～112	2021年8月～2022年3月 (12回)
貝毒発生状況等速報	2021年4月～2022年3月 (31回)
陸奥湾の水温(東奥日報紙)	2021年4月～2022年3月 (毎日)
ウスメバルの資源量予測について	2021年4月、2022年3月 (各1回)
陸奥湾湾口海域のイカナゴ幼魚(コウナゴ)分布調査結果について	2021年7月 (1回)
陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について	2021年7月 (1回)
青森県日本海沖合のハタハタ分布調査結果	2021年8月 (1回)
カレイ類新規加入量調査結果	2021年8月 (1回)
ヒラメ稚魚着底量調査結果(日本海、太平洋)	2021年9月 (1回)
イカナゴ類夏眠場調査について	2021年10月(1回)
令和3年漁期のハタハタ漁獲対象資源量の予測結果	2021年10月、12月(各1回)
イカナゴ稚仔分布調査結果	2022年3月 (1回)

(3) 青森県水産研究情報 水と漁

発行番号	発行年月
第37号	2021年7月
第38号	2021年12月
第39号	2022年3月

(4) 発表論文等

①学会等での発表

- 1) 野呂恭成, John Bowe, 桜井泰憲: タコを考える～その生物像から工学応用まで ミズダコの生態と資源. 令和3年度日本水産学会秋季大会 令和3年度秋季大会ミニシンポジウム(要旨配布のみ), (2021.9).

②その他の投稿

- 1) M. Wakita, K. Sasaki, A. Nagano, H. Abe, T. Tanaka, K. Nagano, K. Sugie, H. Kaneko, K. Kimoto, T. Okunishi, M. Takada, J. Yoshino, S. Watanabe: Rapid Reduction of pH and CaCO₃ Saturation State in the Tsugaru Strait by the Intensified Tsugaru Warm Current During 2012-2019, *Geophys. Res. Lett.* doi: 10.1029/2020GL091332. (2021.5).
- 2) Chiharu Furusawa, Yukiyo Suehiro-Kanazawa, Yuuki Tanaka, Sho Fukui, Chitose Yamazaki, Takuya K. Hosoki, Itsuro Koizumi: Local factors affecting winter habitat use of non-native rainbow trout in a boreal stream in northern Japan. *Ichthyological Research*. **69**(1), 125-131, (2021,5).
- 3) Weifeng Gao, Mitsuhiro Nakaya, Tomoya Ishikawa, Tetsuya Takatsu, Yuhei Takeya, Ryo Suzuki, Kyosei Noro: Validation of otolith daily increment formation and growth analysis of yellow goosfish *Lophius litulon*. *Fisheries Science*. **87**, 541-548. (2021.6).
- 4) Norishige Yotsukura, Shohei Seki, Sachiko Sasaki, Masanori Yoshida: Planned seedling production in the distribution area of *Saccharina japonica*: Sorus formation through the induction of sporophyte maturation and the culture of the seedlings produced. *Aquaculture Research*, **53** (2), 676-683, (2021.10).
- 5) 野呂恭成: 2020年秋から2021年冬に陸奥湾と日本海で大量出現したマダコについて. *東北底魚研究*, **41**. 2-7, (2021.12).
- 6) 野呂恭成, John Bower, 桜井泰憲: 日本におけるミズダコ (*Enteroctopus dofleini*) の生態、漁業および資源状況. 総特集 タコを考える. *月刊海洋*, **54**(2), 52-58, (2022.1).
- 7) Tomoya Ishikawa, Mitsuhiro Nakaya, Weifeng Gao, Tetsuya Takatsu, Kenji Odani, Ryo Suzuki, Kyosei Noro, Yuhei Takeya: Changes in morphology and specific gravity in larvae of *Lophius litulon* (Lophiiformes: Lophiidae) before and after emergence from egg veil. *Environ Biol Fish.* **105**(2), 303-312, (2022.2).
- 8) Sugiura D., Inomata K, Matsumoto N, Sasaki K. Larval and post-settlement recruitment processes of the ark shell *Anadara (Scapharca) broughtonii* (Schrenck, 1867) in Sendai Bay, northeastern Japan. *Cahiers de Biologie Marine* **62**: 99-108, (2021).